

&lt;ご参考&gt;

## 予防接種における主な副作用

ここに記載させていただいた副作用については、一般的なものであり、学生本人のアレルギーや持病などにより異なります。

ご同意いただく前には、ご家庭でも各予防接種の副作用について情報収集していただくことをお願い申し上げます。

### 1) 麻疹

麻疹の予防接種を受けた場合、副作用を伴うことがあります。

10～15%の割合で接種後に発熱と発疹が出るようです。

ワクチンによる発疹は通常の麻疹の発疹とは違い、コプリック斑や色素沈着を伴わず、虫刺されのような発疹になります。

他にも約3%に蕁麻疹（じんましん）が、約0.3%に熱痙攣が見られるようです。

非常に稀な副作用として、脳炎・脳症が100万人から150万人に1人の割合で見られます。

接種後5～10日間は無理をしないようにして、副作用が出た場合にはすぐに接種した医療機関にご相談ください。

### 2) 風疹

風疹ワクチンに含まれるウイルスは、弱毒性なので、通常の風疹感染と違って、ほとんど症状が出ません。また、副反応もほとんどなく、安全なものです。しかし、注射した部位が赤くなる局所反応が出たり、接種してから7～10日後頃に、発熱・発疹・じんましんなどの副反応が出たりすることがあります。ただし、発熱や発疹は1～3日くらいで治まります。また、接種後30分以内に、発熱、顔や手足の腫れ、息苦しさ、咳、じんましん、顔色が悪くなる、ぐったりするなどといったアレルギー反応が出た場合は、すぐに医療機関を受診してください。

### 3) 水痘

副反応としては、まれにワクチンの接種直後から翌日に発疹、じんましん、紅斑、かゆみ、発熱などがみられることがあります。全身症状として、接種後1～3週間ごろに発熱、発疹がみられることがあります。通常、数日中に消失します。また、帯状疱疹になることがあります。ワクチン接種を受けない場合とくらべて、同じか低い程度です。まれに局所症状として発赤、腫脹、硬結などがみられることがあります。アナフィラキシー様症状(じんましん、呼吸困難、口唇浮腫、喉頭浮腫など)や急性血小板減少性紫斑病(接種後数日から3週ごろに紫斑、鼻出血、口腔粘膜出血など)がみられることもあります。

#### 4) 流行性耳下腺炎

予防接種には以下のような副反応が出ることがあります。

- ① 脳炎
- ② 髄膜炎
- ③ 急性散在脳脊髄炎
- ④ 脳症
- ⑤ 痙攣
- ⑥ 耳下腺炎・耳下腺腫大
- ⑦ 発熱
- ⑧ 血小板減少性紫斑病
- ⑨ 急性膵炎
- ⑩ 難聴
- ⑪ まれに、接種後30分以内にアナフィラキシー（接種後急速に発症する強いアレルギー反応）を起こすことがあります
- ⑫ 接種後2～3週間後に発熱や耳の下が軽く腫れることがあります。数日で治ります。（100人に1人の割合）
- ⑬ ごくまれに、接種後から2～3週間後に無菌性髄膜炎を起こすことがあります。そのほとんどが1～2週間で治ります

#### 5) インフルエンザ

ワクチンは免疫をつけるために接種するものですが、免疫がつく以外の反応（副反応・副作用）を起こすことがあります。しかし、インフルエンザの副反応は一般的に軽微な症状です。

<接種した場所に起こる副反応>

接種を受けた人の10～20%の人は、注射をした箇所が赤くなる、腫れる、硬くなる、熱を持つ、痛くなる場合があります。これらの症状は通常2、3日で消失します。

<全身の副反応>

接種を受けた人の5～10%の人に発熱、悪寒、頭痛、嘔吐、下痢、倦怠感、めまい、リンパ節の腫れなどの症状が起こることもあります。これも通常は2、3日でなくなります。また、稀に一過性の意識消失がみられることがあります。

<重篤な副反応>

さらに、非常にまれな副反応として以下のような症状が起こることがあります。

① アナフィラキシー症状

非常に強いアレルギー反応です。アレルギーの原因となるアレルゲンに対して、強い反応が起こることで全身にアレルギー症状が現れます。のどの腫れによって気道がつまることや、血圧が低下すること（アナフィラキシーショック）によって、短時間で命に関わる危険な状態になることもあります。

② 急性散在性脳脊髄炎

脊髄を中心とする中枢神経に炎症が起き、呼吸困難などの重体になることがあります。

③ ギランバレー症候群

自己免疫異常（アレルギー疾患）の一つで急性多発性神経炎ともいいます。末梢神経が短時間で麻痺することで現れる症状ですが、本来は治りやすい病気です。発病の前に、風邪の症状や下痢などの感染症にかかっていることが多いため、これらの抗体に関係していると考えられます。足が重い、しびれるという初期症状が現れ、数日のうちに手足が動かなくなります。重篤な場合は、呼吸筋の麻痺、脳神経の麻痺、顔面神経麻痺などの症状が現れることもあります。

④ 肝機能障害、黄疸

肝機能障害は、肝臓が正常に機能しなくなる状態です。肝機能障害を放置すると、肝炎や肝硬変、肝臓がんなどになる恐れがあります。黄疸は主に肝機能障害によって起こります。全身、特に皮膚や白目の部分などが黄色味を帯びてくる症状が現れます。

⑤ ぜんそく発作

ぜんそくになると息をするときにゼーゼーと音がしたり、咳や痰、呼吸困難の症状が現れたりします。ぜんそく発作では、呼吸困難に陥り、話すことや歩くことが難しくなり、酸素の欠乏により唇や爪が青くなることもあります。

## 6) B型肝炎

発熱、発疹、筋肉痛や関節痛、腹痛からの下痢、吐き気、食欲不振、倦怠感、しこり、局所の疼痛、腫れまた稀に、ショックやアナフィラキシー症状、多発性硬化症急性散在性脳脊髄炎、ギラン・バレー症候群などを発症する事があります。

## 7) 結核

以下のような副反応が現れる事があります。

- ① 赤くプツプツと腫れる
- ② 1%以下リンパ節が腫れる事がある

BCGを受け、2~3週間後くらいに赤くプツプツと接種痕が腫れることがあります。中には膿が出る子もありますが、徐々に落ち着き、自然治癒で接種痕も綺麗に治ります。膿が出てきたからといって、塗り薬を塗ったり、貼り薬使うことはやめましょう。膿が出てきて気になる方は、塗り薬を塗る前に、一度予防接種を受けた病院を受診し、必ず相談しましょう。

他の予防注射では副反応で熱が出る事がよくありますが、BCGが原因で熱が出る事はないので、熱が出ている場合は他の原因だと考えるのが一般的です。

接種後、1~2ヶ月ほど経過した頃に脇の下のリンパ節がはれてくることがあります。また、「先天性免疫不全症」の子どもに接種した場合は菌が全身に広がることもあります。